



令和6年

6月



月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

■塗りつぶしの日 は 休館 です。

『いちばん親切な練り切りの教科書』 藤本宏美/山と溪谷社/596.6 円

初心者でも本格的な練り切りが楽しく作れます。桜や紫陽花、紅葉や白椿といった季節を象徴する植物から、ひな祭りや七夕などの節句、クリスマスなどの現代的な季節のイベントまで、四季折々の美しい練り切りの作り方が紹介されています。見るだけでもほっこりできる、可愛い練り切り満載です。



『文書館のしごと』

新井浩文/吉川弘文館/018 7円

文書館で地域の歴史資料を守るアーキビスト(文書館専門職員)。文書館勤務の著者が、地域史料の保存・公開などの仕事を解説。現場の視点から今後への展望を提示する。資格取得のテキストにも使える。

『人生のルールを外れる衝動のみつけかた』

谷川嘉浩/筑摩書房/159.7 円

衝動とは何ものなのか。どうすれば見つかるのか。どのようにして衝動を生活に実装するのか。「将来の夢」「やりたいこと」といったテンプレに惑わされないよう自分を忘れるほど夢中になれる「衝動」を探すための道標を示す。

『平安京の生と死』

五島邦治/吉川弘文館/210.3 円

死者と生者が近しく交流した平安時代の死生観とはいかなるものだったのか。遺体への意識、御霊と疫病、浄土へのあこがれ、異界との境界から究明。都市の生活と、「生と死の交流」から生まれた豊かな精神文化に迫る。

『古代ローマ解剖図鑑』

本村凌二[監修]/エクスナレッジ/232 円

古代ローマの始まり、帝国の礎を築いた大英雄カエサル、ローマ市民の服装と髪型、ヴェスヴィオ火山噴火、ポンペイの暮らし。ローマ建国神話から帝国の滅亡まで、古代ローマの歴史と文化をテーマ別に図解する。

『刑の重さは何で決まるのか』

高橋則夫/筑摩書房/326 円

「懲役 10 年に処する」の根拠を考えたことはあるか。犯罪とは何か、なぜ刑が科されるのか。制裁としての刑罰はどうあるべきか。「刑法学」の考え方を丁寧に解説する。

『税金とお金』

村形聡[監修]/新星出版社/345 円

難しいのに知らないと損をする税金の仕組み。所得税、住民税、累進課税、相続税、確定申告、iDeCo、インボイス…。普通の会社員を対象に、税金についてわかりやすくまとめる。

『地域防災の実践』

鈴木猛康/理工図書/369.3 円

日本の防災対策の現状と歴史を踏まえ、地域で整えるべき市町村の防災体制、地区防災計画、そして日本人だけでなくインバウンド観光客や在留外国人を含めた防災対策について記す。

『教育 DX と変わり始めた学校』

佐藤明彦/岩波書店/372.1 円

これからの日本社会がより豊かに発展し、国民が幸せに生活できるようになる上で、然るべき教育制度の在り方とは。取材歴 20 年超の教育ジャーナリストが、学校教育の変革とそれを支える教育 DX の最前線をレポートする。

『日本列島はすごい』

伊藤孝/中央公論新社/450.9 円

変化に富んだ気候が豊かな資源を生み、国土を潤す日本列島。時空を超えて島国の成り立ちと形を一望し、水、火、塩、森、鉄、黄金が織りなした日本列島史を読みなおし、天災から命を守り、資源を活かす暮らしの醍醐味を語る。

『健康の分かれ道』

久坂部羊/KADOKAWA/490.4 円

健康診断で何がわかるのか。メタボ健診の功罪とは。精神の健康を害する社会構造の変化。健康を失って見えるもの…。過剰な医療を避け、穏やかな最期を迎えるために準備すべきことを、現役健診センター勤務医が伝える。

『図説近世城郭の普請 石垣編』

三浦正幸/原書房/521.8 円

天守と並ぶ城郭の華、石垣のすべてを最新の知見に基づき詳細に解説。450 点におよぶカラー写真とオリジナル図版が理解を助け、城めぐりのガイドにも最適の一冊。堀・土居についても説明する。

『豆腐百珍』

何必醇/中央公論新社/596.3 円 文庫

江戸・天明期に、豆腐料理を紹介した第一級史料「豆腐百珍」「豆腐百珍続編」「豆腐百珍余録」を現代語訳。料理法を並べるだけでなく、登場する素材の故事来歴をはじめ、中国・日本の文人による豆腐への讃辞と逸話も収録する。

『観葉植物と暮らす本』

大山雄也[監修]/ナツメ社/627.8 円

インテリアの一部として暮らしを彩り、癒しを与えてくれるグリーン。観葉植物の選び方や育て方の基本、映える飾り方を紹介。育てやすく人気の高いおすすめ観葉植物 180 品種の図鑑も収録。

『センスの哲学』

千葉雅也/文藝春秋/704 円

センスとは何か、センスの良し悪しとはどういうことか。音楽、絵画、小説、映画など、芸術的諸ジャンルを横断しながら考える「センスの哲学」にして、芸術入門の書。「勉強の哲学」「現代思想入門」に続く哲学三部作の最終作。

『美しい中国の伝統色と文様』

紅糖美学/ホビージャパン/757.3 円

中国の伝統文化をベースに、服飾・陶磁器・建築物・壁画をテーマとして、豊かで華やかな中国の伝統的な色と文様を紹介。配色については CMYK と RGB 値を表記し、文様の配色 1100 通りを収録する。

『日本語と漢字』

今野真二/岩波書店/810.2 円

日本語を視覚化することを超え、ことばそのものに影響を与えてつづけてきた漢字。「万葉集」の時代から近代まで、漢字の歴史をたどり、文字化の選択肢が複数ある、魅力的なことばを再発見する。

『君の物語が君らしく』

澤田英輔/岩波書店/816 円 青少年

他人と比べず、他人の評価に縛られず、自分のために書いてみませんか? 中学生が自分の可能性を広げていけるよう、書くことの魅力を伝える。うまくなりたと思ったら読んでほしい本 5 冊も紹介。

『生きてるってどういうこと?』

谷川俊太郎[詩]/光文社/911.56 円

動物や植物たちの生命力を強く美しく、精緻に描いた宮内ヨシオの透明水彩のイラストと、「生きる力」や「幸福」についてうたった谷川俊太郎のことばを合わせた詩画集。

『魔女のまなざし』

角野栄子/白泉社/914.6 円

「魔女の宅急便」の著者が、魔女の出てくる物語や伝説、映画をとりあげ、その秘められた力や魔術のある世界について語る。ルーミアの魔女を訪ねた旅のエピソード、くぼしまりおとの親子対談なども収録。

『休むヒント。』

群像編集部[編]/講談社/914.68 円

休みなよって言われても、どうすればいい? 働き方改革時代、ワークライフ“アン”バランスな人々へ贈る休み方の処方箋。伊沢拓司、角田光代、蓮實重彦、益田ミリなどのエッセイを収録。『群像』掲載に書き下ろしを加える。

『35 年目のラブレター』

小倉孝保/講談社/916 円

読み書きができないまま社会に出た西畑保さん。劣等感を抱きながらも手に職をつけ、結婚して子育てをし、そして還暦を過ぎて夜間中学で学び始めた。愛する妻にラブレターを書くために…。映画となった、ある夫婦の感動の実話。

『幽霊を信じますか?』

ロバート・アーサー/扶桑社/933 円 文庫

呪われた屋敷に、心霊現象の専門家ニックがやってきた。というのはインチキで、今回もラジオ番組の収録だった。全国の聴取者たちが真に迫ったニックの放送に夢中になり…異変が! 表題作をはじめ、名短編全 10 作を収録。

『22 歳の扉』

青羽悠/集英社/F 7 円

京都の大学に入学した田辺朔。漫然と授業を受け、バイトをしているうちに 1 回生前期は終わってしまった。後期に入り、旧文学部棟の地下でひっそりと営業されているバーのマスター・夷川と出会い、朔の大学生活は一変した…。

『透明なルール』

佐藤いつ子/KADOKAWA/F 7 円 青少年

「人にどう思われるか」を気にしすぎる女子中学生が、不登校ぎみの転校生やマイペースな学級委員との交流を通じ、自分を縛る「透明なルール」に気付いた時…。空気の読み合い、息苦しさの先に見つけた希望の物語。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。

また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

※メールアドレスを変更された場合はご自身でホームページより変更手続きをお願いします。

スマホ用ホームページ

